

和歌  
源流  
秘

百二九

特別  
~4  
3143



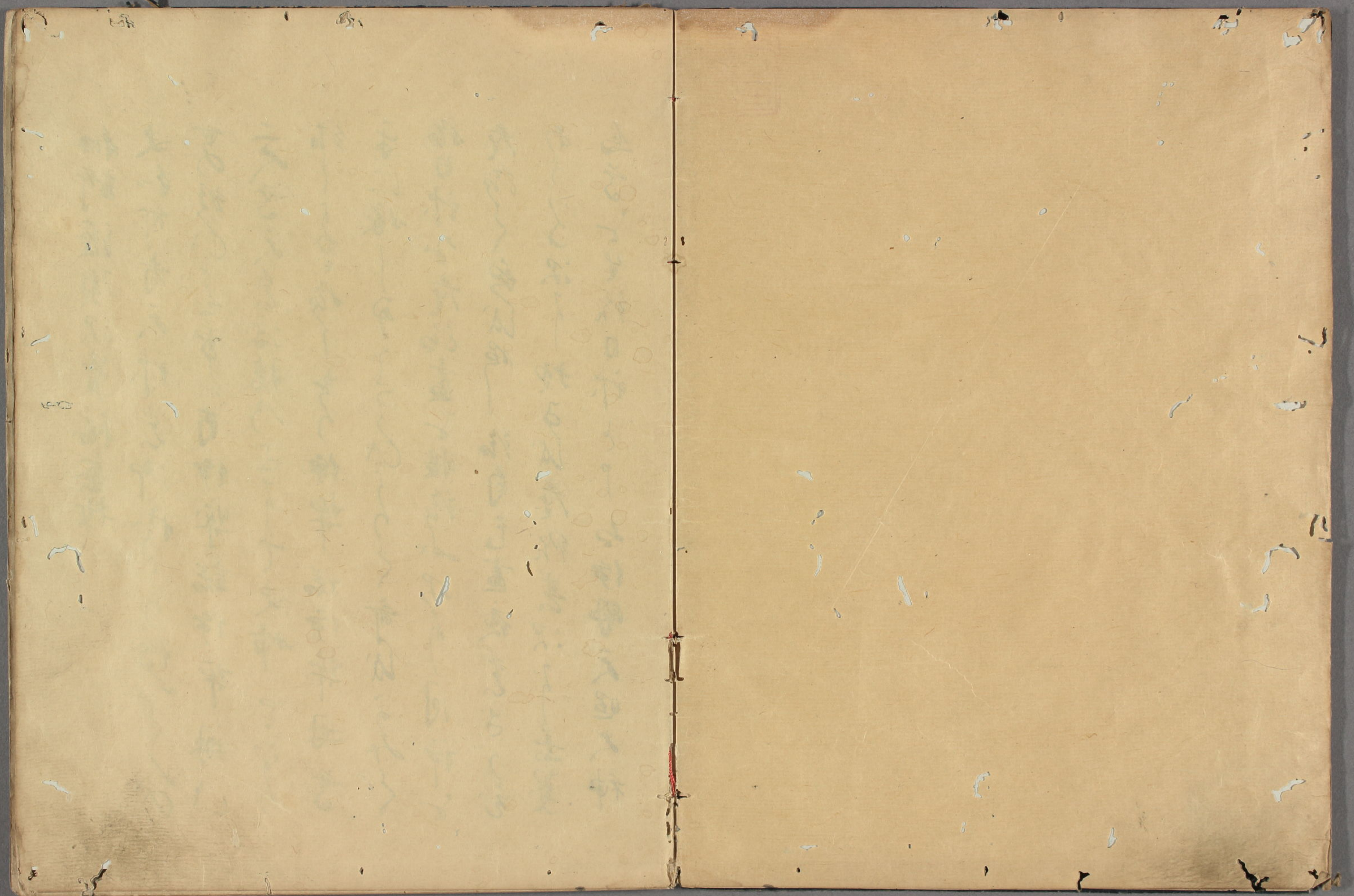




貴  
八4  
8143

< 2008-241 >







和歌灌頂次第秘密抄

夫和歌者天神志神代より傳へく人の  
其の教ひと云事ハ有伊弉諾伊弉冉母  
二人等天志浮橋乃とりて夫婦也なり  
給しより始しきり伊弉諾伊弉冉母等  
手に嫁し母とてひよりく奇成よみく  
始日計を産給盡と照給ふあり月神と  
産給く世成照給自乞盡夜志とさく元  
わつりつ決り神子成産給其決り素戔  
焉等と生給日計とり伊弉天照大神

めく御世給而こ世番志神代素戔焉  
等と神兄天照大神以後見り母成産  
あり女中と遠心あり給くお世圓ひ乃  
川より海と給くあり昔なりは八あり  
大地をひくんと取食ありり是摩乳  
牛と云て天のけと神あり昔ひと稲田  
始と云するわりい大地よりくろる為なりそ  
はるしひとそさの和乃るわれと母始  
と我り母をせよ大地の海はらんやと  
りり母とく大地は打給くさくは稲田



物をすすむけき物にぬくまは物に一所  
しに結さく奇は讀行ありそれなり  
赤津奇は文字忠教も定まらざるを  
そのとらと我物く又字は定まらざる  
やうく字一字一五句と定まらざる  
云々

わらふら 八つりの重れと云ふ也 是は大地のよまきと  
云ふなり

つらむら 是はあらしとすのまき也 目出らるる  
云ふなり

つらむら 是はあらしとすのまき也 是は物と結く八重垣とて  
造られしなり

八重垣は 是は物と結く八重垣とて  
造られしなり

そのまきと 是は八重垣とをあらわす也

一又字は二十一字に之を結ぶ事わ佛の二相

よわく結ぶ而て文字あらず一字なり二相

一をさすわの一字の道理を顯すと云ふ也

文字の一字一なる事されとも二相と云ふ事

あり五七五の先とわの五又まの人の又形也

五形と云ふ本火土金水より申の七

天津七代よわく後の五の地神五代なりわの

ありれ七と八七雜而賦七後而生まる也

喜みむと云ふ我五神なり



五神と尸ハ

地五 八重垣 五形 木火土金水

水七 八重垣 天神七代

火五 素戔仁 地祇五代

風七 八重垣作 七龍帝城

空七 其八重垣 七福即生

五地 八重垣

七水 八重垣

五火 素戔

七風 八重垣

七空 其八重垣

素戔為尊權化神あはく御り現行御り

け佛心の形としく一字一字の五七五七と

五のよ定く禰禰へはらふ一字素戔和奇乃婚

が通しけ奇を和奇の又ととされけけを

得く之十一字れ五のうみり法わらふ

ハ佛と作り我素と作り世界と作り似乎象

同一者の奇にわ佛わられとされふ神も

行生と占へ強り

一人王代となりてた高島城と尸人降真守







漢魏にして如東の字二相を作するなり切  
地となりて現世を安んずるは後生も類を記す  
るを我朝の法にわくもの爲に申すなり其の  
わき戸のくさくさして好めと記すの佛有り  
つらんかぬなりもよく長なく瓶とくよぬ  
ぬなりもち日章志風秘なり 唐土より  
詩を作り我朝よみ和奇を用也是法は古今  
志序の詞よりわくの奇を急くそわりも家  
と云ふ名符とす 待忠事也い侍り古義と  
て古の義わりもは人王十五代の御門神也

皇朝の御門新羅國より王仁也すも家  
の教より御門を仕りしけ毛符の古義を  
傳へしなり我朝の和奇は六義とす亦は羅什  
之義より天竺に就文とくわく古義を奇とす  
向なりとまは道慈律師日本より傳へし六  
義なりつゝ符ともちり抑古義とす亦は神  
代よりともあは奇めと符ともは義を心得ず  
ある唐の符賦以後さとり傳ふる也なり  
その後人王十七代の御門志津門に徳天皇  
とすあり時の王いふは持津國新羅國の



多しりきりり位と辞して昂位わたりし  
さしりとの語りり王に人知王子と位なり  
付給つとさしりを難波津の奇にさしり事續  
せりに六義わりの奇なり

風 あいふよ 是はふふの文と位つとせりと意  
賊 さやけれ 是は極死とく年死と位といふ也  
比 冬ありり 是は年四も極いきとせりといふ也  
真 しは善悪と 是はちて善と悪とさる位なりといふ也  
推 さやけれ 是はさしりにんし給つと位といふ也  
一 田守位つとせりといふ也

け奇を始と六義と一と一ありとよあり同也義は  
け奇始とさる也其六義と一は毛待り

- 一 風 南
- 二 賊 無
- 三 比 阿
- 四 真 弥
- 五 推 陀
- 六 頌 俾

又本言にあてるとる人し柳中人九奇に一首六義  
わのつと名の浦乃朝音に給われとみとを思ふ



明石の浦を縁海路と云えそり是にんあし  
海と縁の時を是推乃奇也裏より高市王子の  
半を讀り是風中りも前の海海を別離義  
傷くのいさゝ多首と一首り讀縁ふ是即  
又賦乃奇也樂樂なる明石にそり人迷とと  
園うたさうにさうく音をさ也王と母と云  
にらりくさばさ也さばわびの義也是頃と也  
ゆいそ義ホと一首りわさうらぬさるれは六首  
の奇にわさく六乃楽と讀をさうり  
一風はさくさういさくも也此と云字とさ由と讀

奇奇云

またといりさるこの花さ由さり  
いすはさくはくとあさるいすさ  
け奇は凡の奇と云すはさくはさくはさく  
さるをよさくく讀を云あり是難岐津の文  
さる位はさくはさくはさくはさくはさく  
はさくはさくはさくはさくはさくはさく  
二賦はさくはさくはさくはさくはさくはさく  
はさくはさくはさくはさくはさくはさく  
はさくはさくはさくはさくはさくはさく







人志らるゝの紫うもし〜

是の別の名も一様よきいふに漢か也だる  
ゆふのそとらふらふ紫よすは理のまゆと云  
六項は彼の奇と云也

こあよのほひくもとみありききくの  
とて紫よのけらり〜

ひとふ乃理と云ふ也物乃理を知らぬの故也  
さうあつと云ふ也ひくとふ道理なり〜但文字  
よふ回縁ことりりと云と後也さ此くもと  
幸後と云らりとの紫回葉と云との棟回棟よ

揚貴妃依有天朝く愛揚回忠皇林く位  
家系事之棟回棟よと云ふ義是少くは得也  
又さ此くさふ唐の乃州よふ水もくして人れ  
とれあし物と物〜様也とあにされも奇  
命も〜而は回よふ章種と云也さふ〜ひのた  
孫と云らり

一 八品云八品は名ののさる也 甚潔骨

混中哥林代忠奇代文もも定〜と或はさの  
奇に〜向る也七字五字も〜但〜中奇と云  
わさ〜の夕ひも守あゆと見花の名を〜



又奇作 是は古今未の和奇 讀人なる所  
長哥 五七三七一の字一文字もさへ  
奇仙達の端わりなり。昔も字一文字もさへ  
なり今 古今集わりこれさへさへあり  
娘哥 今の名は古昔短奇とも云はる也。端  
わりともあり

旋頭哥 五句のあは一句加へるとなり  
つり又七字五字の如くは但しなり也 兼乃記は花  
らと母梅子の如くあり又なりとも  
わさふの如く

ゆそり得へし又は奇は扶世七種と云はけ奇也  
非語哥 され奇ともなりと云はる也 是を  
古今集にもみえたり云に云

梅のこみみりこもさへさへさへさへ  
いとくともさへさへさへさへ

山さねの花つらさへもさへさへ  
とくともさへさへさへさへ

廻文哥 是はさへさへさへさへさへ  
ゆさへさへさへさへさへさへ  
ゆさへさへさへさへさへさへ







二 愚海人丸毛、位不知 仁徳天皇御時人也  
三 玉手人丸是、後五位 亮仁天皇御時人也  
四 柿中人丸海也、柿中人丸三代、御門忠時の人  
かりと云つり、唐土の奇と云ふ

わすれり、わすれり、此は人の奇なり、わすれり  
なり、なり、なり、なり、なり、なり、なり、なり

も、秘伝よ、見え、より、秘、君、お、奇、り、と、め  
る、秘、伝、く、立、回、の、秘、伝、を、錦、と、云、錦、一、人  
丸、を、奇、伝、の、秘、伝、を、奇、伝、一、秘、伝、一、秘、伝、  
秘、と、錦、と、よ、み、秘、伝、を、と、よ、秘、伝、と、よ、秘、伝、と、よ

又、いり、み、ら、を、錦、と、云、錦、一、あり、と、云、奇、を  
わ、つ、め、る、文、武、と、云、秘、も、わ、り、秘、を、秘、武、と  
と、い、り、わ、り、も、い、古、今、席、注、云、秘、武、御、門、養  
老、六、年、一、り、昂、位、わ、り、一、年、七、年、の、十、月、に、立  
回、川、よ、約、幸、わ、り、く、い、時、の、秘、製、志の御作と云  
美なり

新、回、川、り、み、ら、を、錦、と、云、錦、一、あり、と、云、奇、を  
わ、つ、め、る、文、武、と、云、秘、も、わ、り、秘、を、秘、武、と

人、丸、奇、に、奇、伝、の、秘、伝、を、奇、伝、と、云、秘、伝、ゆ、り、と  
奇、伝、の、秘、伝、な、く、く、り、と、云、秘、伝、ゆ、り、と  
よ、り、と、云、秘、伝、ゆ、り、と、云、秘、伝、ゆ、り、と



世 ありき書らしめし書とみせりし事  
若狭乃山の記をいふそ目より

又赤人と云人と銘圖より  
のこころいふは終ふは時ふ  
時ふと云はれわりの説あり  
にむあり人と云はれ武門の  
山を那よりと云はれと云  
此の奇を百葉集とくわひ  
者橋諸兄う時 久石久伴 友持う時 久知言  
い友人う時 撰と云はれ  
は三千余首を述を

始とて後西門平城天皇撰  
百葉集今二万首あり  
十代わりて古今集を撰  
奇とす其十代者

平城天皇 磯城天皇 淳和天皇 仁明天皇 文徳天皇  
清和天皇 陽成天皇 光孝天皇 宇多天皇 醍醐天皇  
鳥羽天皇 白河天皇 堀河天皇 鳥羽天皇 崇徳天皇  
後白河天皇 後鳥羽天皇 後深草天皇 後醍醐天皇  
後村上皇太子 後光厳天皇 後醍醐天皇 後深草天皇  
後醍醐天皇 後深草天皇 後醍醐天皇 後深草天皇



申をこれとわわらうは申をこれと推く  
縁ひたり申に和奇を政のこもけと成入りの  
うと併に成るさ妹なり君はこれ徳をよ  
うとせしとらる一國をなるとく樂をありと思  
食ありうらうらと申一可葉集にのう昔れ和奇  
又い時代のと奇を集く千首女巻に定古今  
和奇集と号とさば天下う一重賦と一節  
用海也物六根申和奇祖師人丸赤人乃こ也  
と申うり妻よ人丸とされ和奇志仙なりと  
申海奇と枝わうとらうともあのこれ言人丸は

一約の正秋目性法師の理をわうり一書借  
二神乃章を倚る和奇美句ふありあ家  
を延路御門これ我集に入縁く正奇と一  
あとい奇を人丸演給つはよわまうと書説わり  
本居の女成解してあ府しげらと皮女取らる  
云もあしとあ作く送り縁よをの石うく  
思送り演あうとも云書時お臨海法師なり  
物よあふとあうこもく書言市忠忠事是よ  
おられさあ縁く後ほ世の書言を親て播弱  
の石浦よ世はのうれ浦次用よの書一縁よ



時より市王代別を海流の流より多くて續  
續に五皇我乃都讀入のふ

かみくと

是の市のおまのふくくめあめくと朔日のおゆる  
こくとふくくくわの市は若都とくひる

あふれの

是の政のわきうらう市わりの市は月のおゆる  
ふくく

わきとりに

ふくくりに見おさるれとも無常の音に行き  
きくれわり暗さるまわりよりと云ふ也

つるれり

これとるをゆるくそそのとくこれゆるをゆると云ふ也

整をよ

道の死かのとて徳の徳の徳の水をよとて思と  
よふりこれの市の面海流の流の神されとも  
市わりの市と續つらとて思ふりこれに深んて思

かのくせ 東 阿闍佛 妙 列

あふれの 南 寶生佛 法 法

わきりに 西 無量壽佛 蓮 蓮

つるれり 北 大迦牟尼 率 率

あふれの 中 大日如來 經 經

是のよくわきをつるか人お毎日とて及つこの  
市は流て五方五佛に廻向して思ふ也現世の  
和奇とゆるをゆると後生に佛果のゆるは  
かりぬはわきの文より病とて思ふ市わりの市とあり  
のまのりしとて病とて思ふは信者玉津の  
し神和奇代申し神代より思ふ和奇代神代  
流も流る市比業師あくも海とあり和



奇と漢字の病字をうり人さ也帯撰。相叶  
病字也是れも子来の系道人これわり其  
説よりて病八病をいふなり何れなり  
ある定友ある友陸ある友有友 有友推紳  
是れ新古今集撰者い四人なり安成とて  
病八病とていふに十二患病の位者也帯比  
革師めくも一も二も中撰にわてて祖師の  
説よりていふ病八病とていふなり也

一 四病事

一 岸樹病

是の病の五文字れ初め五文字と次七文字れ始の五文字と  
あり一文字と三文字と帯事云

みまういんさといふなり本下病の而もいふなり

一 浪船病

是の病の五文字れありの字と次の七文字れありの字と  
とあり一文字と三文字と帯事云

別わらん波のひみりなり

一 風煙病

是の病の五文字れありの字と下の七文字れありの字と  
あり一文字と三文字と帯事云

そのり兒なり神のさく落る候なり也

一 落花病

是の病の五文字れありの字と次の七文字の二番れ字と  
とあり一文字と三文字と帯事云

友のさく落るなりとありと候なり也

一 八病事

一 胸尾病

是の五文字のわたりれ字とされたりと候なり  
とあり一文字と三文字と帯事云

柄のり本れ下りなり



一 敬者病 是る病の丑文字れありのまときとまよひさる

引連つて唐のふりるまよひさるて用よし一段の縁祿する神

一同強病 是はよりりあつて引の又下にありとさうぬき云

すのりあだこの浦浪こぬ日あわれともまよひさるぬ日あ

一同公病 是はよりりあつて引の又下にありとさうぬき云

水くろきたまよれ所にもすそあまねい針とくし針を

一 傷馬病 是はよりりあつて引の又下にありとさうぬき云

なるとまよれこれのさそく又いれともみろあつ月

一 敬者病 是はよりりあつて引の又下にありとさうぬき云

深りおのりともいさじにすつたりみよあつてれさる

一 敬計乱病 是はよりりあつて引の又下にありとさうぬき云

わよまそともあそいのれさるわの意を人の命よりれ

一 後病 是はよりりあつて引の又下にありとさうぬき云

始り知命れ又母老詞よりり六義八品十二病はさ

はまよひつてあつたりと早くとを待たぬ人よあ

てすふあよあは後さる人れあとも我も

と云共神の心をあつたりとあつてあは愛に五義

之神と云和強乃秘密わつ中作り者らるる一

人よあつて二人知人さるれともあつたり

起請七投うせく金銀瑠璃車槩馬魁未忠



六種政實を信者玉津河にまゝく習ふ事也  
從道月をうとつとふもいふ事ありていふ事あり  
さうくをうとつとふもいふ事ありていふ事あり  
あり御道なりとすれども御恩と云神祕と  
言哥なりは天竺より傳はると言ふ見八神  
禊よりありて思ふ事と云くは御道なりと  
言ふ事あり御道なりと云くは御道なりと  
ありと云ふ事あり御道なりと云くは御道なりと  
を讀みよ御道なりと云くは御道なりと  
云くは御道なりと云くは御道なりと

此と云はくはなり先にも云くは我朝の  
此法なりと云くは御道なりと云くは御道なりと  
ありていふ事あり御道なりと云くは御道なりと  
生るる事あり

御道乃起め

五月御七席 〃〃〃〃〃の五題時為  
七曲 おかつるも七流 鳴るる御道  
是より御道なりと云くは御道なりと  
時作文字にありて御道なりと云くは御道なりと  
ありていふ事あり御道なりと云くは御道なりと



お交皆むなしくわいさひともわかれそねと  
思ふはけもくわんのことく次交文字より題を  
わつておくのせ文まにくとらせくわつりれ  
てくえらうすももくは月をこととて時ありお  
め日よふあふくんとしと思ふあり  
くくくくくくくくくくくくくくくくくく  
まふれと都らとくんとすうきとまてわんの  
とく時をとわつてくくくくくくくくくく  
くくくくくくくくくくくくくくくくくく  
もく都らの奇り極よきくくくくくくくく  
くくくくくくくくくくくくくくくくくく  
二六義乃理りりともくくくくくくくく  
よまるくありぬよたおたくくくくくく  
お通く我子屋とくありくくくくくくく  
お通よの通くくくくくくくくくくくく  
向也まの子もくくくくくくくくくくく  
ゆくありくくくくくくくくくくくく  
くくくくくくくくくくくくくくくくく  
お津海のはくくくくくくくくくくく  
神哥はわくくくくくくくくくくくく



よりかく不つ傳也いふ成す申程よく  
とくさくよ相傳しきうなをち申さるく  
むくをよけ抄をい代敷にみといふ  
と一問よ早

信者玉律の御尋を苗新く尋ねたり  
空留りて極く

一 題とくこのことくよまよとも又初よりとも  
を事な代ををく題の字志ん初とれ  
りりあく云早わ述くとも尋程をいせ  
此れありたり程とも一すくなりなり

とくを尋云

青雨のうの言橋水越て流りて立流れ  
是の五月あつと云はすふら言橋と云  
時をうると云いぬ月あのみ也それり  
言橋と云ふ前よりそれよあふとくわわ  
ぬ月あれいさなりとあくとく流と云ふ  
橋と云ふい義なり一流りりうと云  
こころきれと云い橋よ流ると云事一橋ハ  
流のきとるなり又く一を流り義と云  
綴れ初りて是れ和國志布多乃高橋れ



申すなりくー加御は又よみそらるゝをい  
奇なりすしこなりくー五月雨をとまわの  
らあをわいゝをのわらうらふありをさ  
橋をぬらうらうらわやうと国書や又  
揚志をいゝかふらうのゝいれもい  
うふいつ通もいゝとさうりあしてのてお  
あうかふらうらあしあふらうらわいゝを  
かふらうらわそのれららうかふらう又  
比海り守れしのためわらうらうらとせ  
わと同一書や五七五とをさるのひま  
やと通もらばりく奇の申意とせり  
是梵語の義也是昂一入定しては梵  
語大段めくち詩の義日帝にそゝ和言の  
申意なり次は和言中にこら染あつ也  
こら染と云ふ一りちあうこら染と云ふ  
こら染と云ふ一りちあうこら染と云ふ  
申す云

よそに乃をさるゝをいゝ高きを  
そらうらうのこら染をいゝをいゝ  
はかす神とそらうらう一はかす神とそらうらう



日り夜をみる

一 和奇と連続とのわりあわりあり下  
句を止むきく無理をわしつー連続と  
あ句は乃理と二つも是也是にいよく  
奇奇といふ也腰折るなりゆら〜それ  
候り也句理二ありはつゝ如し

我色は松風時あは深き孫そ音そ風そ  
色は奇なるれとも近年さびら〜それ  
すありたはしと松そ時あは深き〜と  
ちち下句ありあはとも〜それなりと

ありとも晴向ともさ〜らめり孫そと云  
は〜らめりあはつたに又下句よ別  
半と〜らめりあは〜す〜あは風そ〜  
とまても道理は〜候りともあり

一 苗世の神五七又あそあ〜題とあり  
てさ〜〜理はさ〜とす〜をさ下  
二よ引多〜み〜つ〜と道理は得  
候り危しにすは苗世の凡神と〜也  
奇奇云

山踏書と云題



まよふ六段よりきりと讀人のいふよからし電  
秋凡びめく

古寺北庭のまよふれ一葉とわきまにのせ秋凡そく

秋感嘆

病とよといふも吹ぬ葉はらなをわぬ海とよさ秋

右此哥ホなりく南世の凡神とよる也い  
有はらうり奇て人めあ我ももつ後や  
右い抄者新古今く比宗近定友家  
隆有家推紳とくまう一由と此中

定家者二条流の又俊成志中り子を  
りうやと六条流とて奇もかあり  
わわり而にけ四人所要法とくけ抄  
集め終つり勢くいまる石徳印見抄  
也一帯信者りて人志判形と加く  
終終つるも外是ありとと又おぬ  
入射一毎終結とま相掛くけ書と不  
有化見え也あくけ抄く傳い四人判  
形と加く端と和筆少て御詞と被加



